



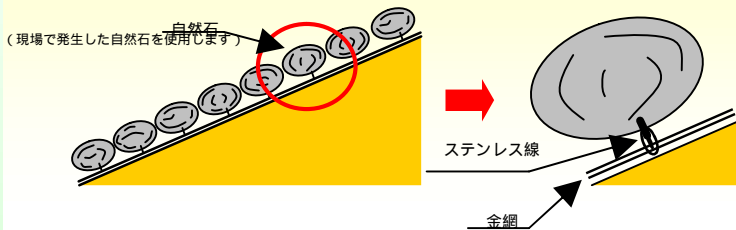
古来、小渋川は大鹿村の人々に潤いや安らぎを与え、さまざまな文化・歴史を育んできました。その一方では、時として荒水となり、人々の生活をおびやかしてきました。地域の皆さんの暮らしを守るため、小渋川の大河原で護岸工事を施工しています。

伝統の空石張がよみがえる

石張には、練石張と空石張があります。空石張は、石をコンクリートで固定しながら積み上げる練石張とはちがい、コンクリートを一切使わずに石を積む技法です。空石張には適度な「すき間」ができ、小動物の生息場所となるほか、草も生えます。しかし最近では練石張が主流となっているため、空石張を見かけることが少なくなりました。今、私どもが行っている護岸工事では、近代技術「自然石空張工法」を取り入れ、伝統の空石張がよみがえります。

自然石空張工法護岸

(現場で発生した自然石を使用します)



ぜひ、現場を見学してください。
工事のことで
お気づきの点がございましたら、
ご連絡下さい。

株式会社 伊原工務店
現場代理人 片桐淳一
電話 0265-39-1105

歴史探訪してみませんか？

大鹿村には、いろんな「歴史」が残っています。

その中の征夷大將軍信濃宮宗良親王の史跡を、たどってみることにしました。

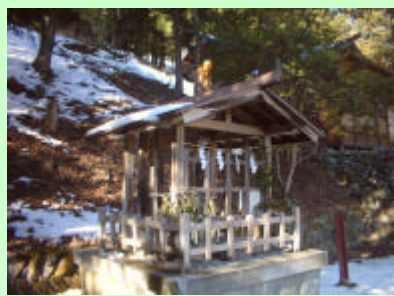
宗良親王とは

南北朝時代に活躍した後醍醐天皇と藤原為子の八番目の皇子として生まれました。二十歳の時に比叡山延暦寺の天台座主となります。南北朝の内乱の中で南朝方の先頭に立ち戦いを重ねます。しかし、戦いはすべて敗れ、後醍醐天皇は延元4年(1336)に崩御されます。宗良親王は、遠江国井伊谷 越後国寺泊などを転々としたのち、興国四年(1343)の34歳の時に、香坂高宗氏に迎えられて信濃国大河原に入り、以来30余年の間ここを拠点として活動されました。



御所平 ごしょだいら

宗良親王が仮御所として住まれた地。いくつかの平坦な屋敷跡があり、親王自らが詠んだ歌を刻んだ石碑がたっています。



宝篋印塔 ほうきょういんとう

室町時代初期に建てられ、地元では宗良親王の墓として祭られています。



福德寺本堂 ふくとくじほんどう

堂建立の施主や中心人物は、宗良親王か香坂高宗とも考えられています。堂内には阿弥陀如来・薬師如来・毘沙門天・聖観世音菩薩が安置されており、この4体は村指定文化財です。福德寺本堂は長野県最古の木造建築物として、昭和25年国の重要文化財の指定を受けています。



信濃宮神社 しなのみやじんじや

長野県の記念事業として建立され、昭和23年11月3日鎮座奉祝祭が挙げられました。



香坂高宗墓跡 こうさかたかむねぼせき

香坂高宗は南北朝時代に大河原城主として征夷大將軍信濃宮宗良親王に忠節をつくした人物です。



大河原城跡 おおかわらじょうし

南北朝時代、宗良親王を生誕に渡り守護した香坂高宗の居城です。

いつかたも山の端ちかき紫の戸は
月みる空やすくなかるらむ
宗良親王の歌
宗良親王が住まわれたこの地(大河原)に刻まれている歌碑は、帰ることのできない故郷京都を思うのでしようか。



出展 大鹿村役場 HP
<http://www.ooshika.com/>
大鹿村商工会 観光協会 HP
<http://www.clio.ne.jp/home/ooshika/>